

## 1. 基本的認識

わが国経済は、震災からの景気回復が緩慢な中、円高是正による輸出環境の改善や経済対策の効果などを背景とした回復への期待感がある一方、世界経済の減速や対外関係の緊張を受け、国内の生産活動は低迷を続け、景気の先行きは依然として予断を許さない状況である。

物流業界においても、国内貨物総輸送量の伸び悩み、競合輸送機関との競争激化など、当社の経営を取り巻く環境は引き続き非常に厳しいと認識せざるを得ない。

一方、わが国のエネルギー政策は大幅な見直しが求められているほか、昨今のトラックドライバーの高齢化による長距離ドライバー不足は一段と深刻さを増している。そのような状況の中、大量輸送という機関特性を有する輸送モードである鉄道が果たすべき役割は、ますます大きくなっており、重要な社会インフラとして、鉄道貨物輸送への期待は一層高まるものと思われる。

しかしながら、当社の経営は、景気低迷の影響を受け、昨年度の運輸収入は計画を大きく下回り、鉄道事業の収支は一昨年度にも増して厳しい状況となっている。

本年度は、安全の確立・安定輸送の確保を大前提に、鉄道事業の収支改善を最大限に図り、早期黒字化に向け、役員、社員が一丸となって危機感を共有することで、業務のしくみや組織を抜本的に見直し、鉄道事業の競争力を高める経営改革に取り組む。

鉄道事業については、今春の大規模ダイヤ改正の効果を収支両面にわたり最大限発揮できるよう取り組んでいく。また、老朽化が進行している車両、設備の取替を進める。関連事業については、新規案件の発掘とその着実な実施を図るとともに、契約更新期を迎える賃貸物件の賃料維持に努める。

本年度稼働する「新会計システム」を活用し、月単位で鉄道事業、関連事業別に予算実績管理を行い、事業計画の進捗を把握するとともに、数値による経営管理を深度化し、スピード感を持った改善策を実行する。

## 2. 事業計画の概要

### (1) 経営基盤の整備

#### ① 安全の確立

##### ア. ソフト面の取り組み

- ・ 「ヒヤリ・ハット」の活性化と「リスクマネジメント」への取り組み
- ・ 安全上リスクの大きな事象に重点を置いた要因分析と実効性のある対策実施
- ・ 「正しい作業の実践」の取り組み

##### イ. ハード面の取り組み

- ・ ATS 装置の機関車への搭載、貨物駅構内への速度照査機能付 ATS 地上子の新設の推進
- ・ 運転士異常時対応訓練用シミュレーターの導入
- ・ 鉄まくらぎの投入、連動装置取替え、入換信号機の LED 化など

#### ② 安定輸送の確保

- ・ 輸送障害時の早期復旧、動物類との衝突事故対策としての各旅客会社・沿線自治体等との連携強化
- ・ 新形式車両の投入、車両保全検討会の実施による当社起因の輸送障害の撲滅
- ・ 「IT-FRENS」におけるコンテナ単位での遅延情報照会機能の提供
- ・ 利用運送事業者との連携によるトラック代行手配の迅速化

- ・ 主要各機関区・駅における機関車、コンテナ車の予備車両の配置
- ③ コンテナ輸送品質の向上
- ・ お客様・利用運送事業者・協力会社と一体となった「コンテナ輸送品質向上キャンペーン」の全国展開
  - ・ ドライブレコーダー機能、吊上げ脱線可能性検知機能を搭載したフォークリフトの導入
  - ・ 新製コンテナの計画的投入
- ④ お客様に選択される魅力ある商品づくりと販売活動の強化
- ・ 新規貨物の開拓を専任で行えるよう、また、既存貨物の対応をよりきめ細かく行えるよう、営業体制を強化
  - ・ 「ソリューション活動」による新規開拓
  - ・ 10 トントラック単位での鉄道シフトが容易な汎用 31 フィートコンテナの増備
  - ・ 駅構内バニング施設の設置によるトラック事業者の新たな誘致
  - ・ コールドチェーン（低温物流）に対応した冷凍・冷蔵コンテナの開発検討
  - ・ 京浜港近隣の貨物駅を結節点と位置づけた新たな「SEA&RAIL」輸送商品の拡大
  - ・ (株)ジェイアール貨物・インターナショナルと協働した海外新規顧客の誘致
  - ・ 災害廃棄物輸送の完遂
- ⑤ コスト削減・輸送体制の刷新
- ・ H25 春ダイヤ改正の実施状況トレース
  - ・ ORS 化に伴うフィーダー輸送のトラック活用
  - ・ 乗務範囲拡大、一部基地配置見直し等による運転士運用効率の向上
  - ・ 新形式機関車増備と老朽機関車の淘汰による車両運用効率向上
  - ・ 車両運用の効率化（車両所業務の生産性向上、貨車運用管理システムの開発）
  - ・ 機関車・運転士運用計画システムを活用した効率的な運用計画の検討
  - ・ 事務センターにおける事務作業の標準化、集約化の推進
  - ・ 間接部門のスリム化
  - ・ 各種資材調達コストの価格低減に向けた取組み
- (2) 人材の育成と技術継承
- ・ 技術継承に向けた教育プログラムの充実
  - ・ 次世代経営者育成のための経営幹部育成プログラムの継続
  - ・ 提案活動、小集団活動、業務研究等の活性化
  - ・ 業務改善ガイドラインの作成
  - ・ グループ会社社員への教育プログラムの提供
- (3) 新しい技術の開発
- ・ 津軽海峡線の新幹線共用走行用専用機関車 EH800 形式（試作車）の走行試験実施
  - ・ 次世代コンテナ車の開発
- (4) 関連事業の着実な拡大
- ・ 新規案件の発掘とその着実な実施
  - ・ 輸送体系の効率化による用地の生み出し
  - ・ テナントニーズに合わせたリニューアルの実施
- (5) グループ体制の強化
- ・ グループ外収入の積極的拡大
  - ・ ロジスティクス会社へのグループ内製化、委託業務一元化によるコスト削減
  - ・ 「新会計システム」のグループ会社展開の推進

(6) 環境・社会経営

- ・ 鉄道へのモーダルシフト促進によるCO<sub>2</sub>排出量削減への貢献
- ・ HD300 の導入拡大等による自らの事業活動に伴うエネルギー使用量の削減
- ・ 化学物質の適切な管理、廃棄物の削減への取組み、社員一人ひとりの環境意識強化
- ・ 「エコレールマーク」の普及・啓発活動

(7) コーポレート・ガバナンス、内部統制の強化充実

- ・ コーポレート・ガバナンスの強化・充実
- ・ コンプライアンス意識の向上、内部監査体制の強化等による内部統制システムの充実

(8) 設備投資

- ・ 安全投資の推進、老朽設備・車両の更新など総額 232 億円の設備投資  
(鉄道事業 219 億円、関連事業 12 億円)

## 平成 25 年度事業計画 収支想定

(単位：億円・単位未満切捨)

|              | 23 年度<br>決 算 | 24 年度<br>事業計画<br>A | 25 年度<br>事業計画<br>B | 比 較<br>B - A |
|--------------|--------------|--------------------|--------------------|--------------|
| 営業収益         | 1,529        | 1,551              | 1,526              | △ 24         |
| 運輸収入         | 1,128        | 1,189              | 1,146              | △ 42         |
| コンテナ         | 991          | 1,073              | 1,046              | △ 27         |
| 車 扱          | 136          | 115                | 99                 | △ 15         |
| その他収入        | 401          | 362                | 380                | + 17         |
| 営業費          | 1,493        | 1,510              | 1,458              | △ 52         |
| 人件費          | 441          | 430                | 395                | △ 35         |
| 物件費          | 791          | 792                | 787                | △ 5          |
| 減価償却費        | 197          | 201                | 198                | △ 3          |
| 租税公課         | 68           | 71                 | 77                 | + 6          |
| 災害対応等予備費     | —            | 20                 | 5                  | △ 15         |
| 厚生福利施設費相殺    | △ 5          | △ 5                | △ 5                | —            |
| 営業利益         | 36           | 40                 | 68                 | + 27         |
| 営業外損益        | △ 34         | △ 35               | △ 34               | + 1          |
| 経常利益         | 1            | 5                  | 34                 | + 29         |
| 特別損益         | 10           | 9                  | 5                  | △ 3          |
| 税引前当期純利益     | 12           | 14                 | 39                 | + 25         |
| 法人税、住民税及び事業税 | 1            | 11                 | 18                 | + 7          |
| 法人税等調整額      | 16           | △ 4                | 0                  | + 5          |
| 当期純利益        | △ 5          | 7                  | 20                 | + 13         |

## 輸 送 量 比 較

### ○ 輸送量(トン)

(単位：万トン)

|      | 23年度<br>決 算 | 24年度<br>事業計画<br>A | 25年度<br>事業計画<br>B | 比 較  |       |
|------|-------------|-------------------|-------------------|------|-------|
|      |             |                   |                   | B-A  | B/A   |
| コンテナ | 1,961       | 2,144             | 2,136             | △ 8  | 99.6% |
| 車 扱  | 1,022       | 931               | 870               | △ 61 | 93.4% |
| 計    | 2,983       | 3,076             | 3,007             | △ 69 | 97.7% |

### ○ 輸送量(トンキロ)

(単位：億トンキロ)

|      | 23年度<br>決 算 | 24年度<br>事業計画<br>A | 25年度<br>事業計画<br>B | 比 較 |       |
|------|-------------|-------------------|-------------------|-----|-------|
|      |             |                   |                   | B-A | B/A   |
| コンテナ | 180         | 195               | 194               | △ 0 | 99.6% |
| 車 扱  | 18          | 14                | 12                | △ 2 | 85.2% |
| 計    | 198         | 209               | 207               | △ 2 | 98.6% |

※ 端数処理のため、計が合わない場合があります。